

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 飛騨牛輸出促進緊急支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 輸出戦略係 電話番号：058-272-1111 (内 2896)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 20,000 千円 (現計予算額：9,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	9,000	0	0	0	0	0	0	0	9,000
補 正 要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額	15,000	24,000	0	0	0	0	0	0	△9,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

新型コロナウイルスの影響により、R元年度の飛騨牛輸出量はH30年度の87%^{※1}まで減少したが、令和2年10月から本事業の実施により、直近(R3.4-5月)の輸出頭数はコロナ前の水準に戻りつつあり、事業効果が現われてきている。そこで、事業期間を令和3年度末まで延長し、回復基調を確実なものとし、飛騨牛輸出量のV字回復を図るため、必要経費の増額補正を行う。

今後は、ワクチン接種率の高い国では、外食の規制緩和等に伴い、和牛需要の回復が見込まれる。

また、飛騨牛の枝肉価格は、国内消費の落ち込みから、現在もコロナ前の水準に戻っていないが、需要の回復が見込まれる飛騨牛輸出が枝肉価格の下支えの要因となっている。

※1 飛騨牛輸出量：87% 59.2t (H30年度) → 51.7t (R元年度)

(2) 事業内容

コロナ禍で減少した飛騨牛輸出量を、過去最高の輸出量となったH30年

度（59.2t/年）の水準まで回復させるため、飛騨牛の小割加工（オーダーカット）費用について、掛かり増し分を県が補助する。

[対象者] 飛騨牛の販売に取り組む食肉販売事業者

[交付額] 定額 1頭あたり 50 千円

[期間] 12ヶ月間^{※2}（R3.4～R4.3） ※2 現行予算による実施期間を含む

（3）県負担・補助率の考え方

飛騨ミート農業協同組合連合会が定める加工料（掛かり増し分）^{※3}を、食肉販売事業者の代わりに負担する。

※3 100円/kg × 500kg/頭 JA飛騨ミート聞き取り

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	20,000	輸出向け処理見込 50頭/月 × 1頭あたり 50千円 × 8ヶ月間
合計	20,000	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（H31年3月策定）
3（1）④ 「ぎふブランド」づくり
- ・「ぎふ農業・農村基本計画」（R3年3月策定）
（3）ぎふ農畜水産物のブランド展開 ①輸出拡大の強化

（2）国・他県の状況

国においては、農林水産物・食品の輸出額5兆円を目指すとした「食料・農業・農村基本計画」（R2年3月）を策定する等、国全体での輸出促進への取組をさらに加速している。

（3）後年度の財政負担

新型コロナの世界的な収束状況等を見極め、後年度の財政負担を検討する。

（4）事業主体及びその妥当性

飛騨牛輸出のV字回復を図るため、飛騨牛の輸出に取り組む食肉販売事業者を対象とする。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	飛騨牛輸出促進緊急支援事業費補助金
補助事業者（団体）	飛騨牛の輸出に取り組む食肉販売事業者
補助事業の概要	（目的）R2年度に飛騨牛輸出が大きく減少した中で、飛騨牛の輸出に取り組む食肉販売事業者へ支援を行い、回復基調にある飛騨牛輸出のV字回復を図る。 （内容）特定期間（R3年度中）において、飛騨牛輸出のV字回復を図るため、JA飛騨ミートにおける飛騨牛の小割加工（小割カット）費用について、掛かり増し分を県が補助する。
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他（例：人件費相当額） （1頭当たり最大50千円）
補助効果	飛騨牛ブランドの維持及び輸出量のV字回復
終期の設定	終期R3年度 （理由）飛騨牛輸出量が回復基調にある現状に対する緊急対策のため。

（事業目標）

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

コロナの影響により低下した飛騨牛の輸出量を、コロナ前(H30年度:59.2t/年)の水準まで回復させ、海外における飛騨牛ブランドを維持する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2年度末)	目標 (R3年度末)	目標 (終期)
① 飛騨牛の年間輸出量（t）	45.1	/	75.0

	R2年度	R3年度	R3年度 (要求)		
補助金交付実績	9,000千円	(予算額) 9,000千円	(要求額) 20,000千円	/	
指標①目標	65.0	75.0	75.0	/	
指標①実績	45.1	(推計値) 75.0	(推計値) 75.0	/	
指標①達成率	69%	(推計値) 100%	(推計値) 100%	/	

（前年度の成果）

・事業開始前の上半期（R2.4-9月）は、飛騨牛輸出量が前年度と比べ半減したが、事業を開始した下半期（R2.10-R3.3月）にかけては、前年度並みの水準まで回復した。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none">・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 海外においてワクチン接種が進む国では、経済再開に伴う外食等の規制緩和により、和牛需要の回復が見込まれる。・ 他産地に先立って飛騨牛の輸出量をV字回復させることで、本県を代表する飛騨牛ブランドを維持していかなければならない。

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	海外において、和牛需要の回復が見込まれる中で、飛騨牛ブランドを維持し、飛騨牛輸出のV字回復を図る輸出支援策は必要が高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価)	

(事業の見直し検討)

--

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

継続・削減・統合・廃止 (理由)
